

家族や子と居る時間は全国 2 位

政府は、11月第3日曜日を「家族の日」、その前後各1週間を「家族の週間」と定め、子どもや子育て、家庭を社会全体で応援することの大切さを呼びかけている。

三重県民が、子どもや家族と過ごす時間は全国平均を大きく上回る。総務省が5年ごとに実施する社会生活基本調査によると、県内の10歳以上の男女が、家族だんらんなど「休養・くつろぎ」に充てた時間は、2021年が週平均で1日あたり120分となり全国8位、「育児」は17分で全国3位となり、合計では全国2位となった。16年の調査結果と比べると、25位だった「休養・くつろぎ」は22分増え、20位だった「育児」は3分増えて、それぞれ順位を大きく上げた。

背景には、コロナ禍で在宅勤務が増えたり、外食や付き合いなどの外出時間が減ったりしたことなどがある。中でも三重県民は、仕事やテレビの視聴などより、家族との時間に目を向けた人が多かったようだ。

コロナ禍は明けたが、家族の時間を大切にできる意識の広がりも嬉しい。県は毎月第3日曜日を「家庭の日」とし、家族のふれあいの場として博物館や美術館の割引、無料開放などを行っておりそれらを利用するのもよい。これを機に、家族の大切さを改めて考え、家族と触れ合う時間を増やしてみよう。

(地域調査部 主任研究員 谷ノ上千賀子)

県民の1人1日当たりの行動分類別の生活時間(10歳以上、週全体平均)
総務省「社会生活基本調査」より。▲はマイナス

	家族の時間	休養・くつろぎ	育児	仕事	身の回りの用事	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	交際・付き合い
2021年	137分	120分	17分	203分	80分	129分	9分
2016年比増減	25分	22分	3分	▲11分	▲2分	▲11分	▲5分
2021年の全国順位	2位	8位	3位	33位	42位	30位	31位

※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む(百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました)」

2024年11月14日